

JA北海道厚生連 帯広厚生病院 内視鏡室

徹底した感染対策で高度な安全管理と コスト削減を実現

帯広厚生病院は昭和20年の創立以来地域医療を使命とし、地域で最も信頼され患者さんから選ばれる病院を目指しています。平成15年には財団法人日本医療機能評価機構より病院機能評価の認定を受けるなど、安全で高度な医療サービスを地域に提供しています。

消化器内視鏡検査は同院が最も力を入れている領域の一つで、平成17年度は上部消化管だけで6,239件と、高い検査実績を誇っています。内視鏡室では感染対策のために消化器内視鏡技師会のガイドラインを遵守し、スコープの症例間消毒を実施しています。処置具に関しては、3年前から生検鉗子を全てディスボ化し、現在ではほとんどの処置具をディスボ化して完全な感染対策を実施しています。

処置具のディスボ化のきっかけについて、第三内科(消化器科)第二主任部長の柳澤秀之先生にお話を伺ったところ、「リユース製品は再処理に手間がかかる上、何回使用できるのかが不明です。実際にリユースの生検鉗子を使っていた頃、使用時に動きが悪く使いにくいことがありました。その点ディスボ製品であればこのようなトラブルがなく、安心して検査や処置が行えます。また、ディスボ化により洗浄や滅菌に要するスタッフの時間と時間が削減でき、その時間を他の仕事に回すことでスタッフの有効活用も図れるため、コスト面でも大きなメリットになるのではないのでしょうか」とお話をされました。

内視鏡室では、年々増加傾向にある内視鏡検査に対応するために、今後はスコープや洗浄器などの機材の拡充を進め、地域医療への貢献度をより高めたいということでした。



帯広市西6条8丁目1番地

院長：川口 勲

病床数：748床

年間内視鏡検査件数(平成17年実績): 上部消化管
6,239例 下部消化管 2,214例 ERCP 294例

スタッフ: 医師12名、研修医4名、看護師9名(うち内
視鏡技師2名)、看護助手1名



内視鏡室のみなさん